

たくみ

T A K U M I

令和5年度・第31回総会を開催 受け継いできた技術を次の世代へ

6月20日に令和5年度（第31回）の通常総会を長野市のホテル犀北館に40名が参加して開催した。令和4年度の事業報告と会計報告、令和5年度の事業計画および予算を承認したほか、臨時の役員改選を行った。

土本俊和会長は、あいさつで「みなさん『名匠』という名のもとで日々研鑽しているが、技術の継承が懸念となっている。設計から施工までの技術の向上、我々が受け継いできたものを次の世代に引き継ぎ、伝えていくことが重要」と話した。

役員の任期満了は次年度だが、理事の堀誠氏（建築工房アカシヤ）と中村光敬氏（中村木工所）が、世代交代や体調面を理由に退任。新たな理事には、高橋志行氏（むね工房）と山崎慎一郎氏（山崎屋木工製作所）が就いた。また、長年本会にお力添えをいただいた出澤潔氏、前島浅男氏が、高齢などのため退会された。新たに、宮入鋼平氏、竹野正樹氏、吉池茂氏、竹節雅英氏が入会。会員の若返り、世代交代が感じられる。

総会の基調講演は、坂田涼太郎氏（坂田涼太郎構造設計事務所）が「木質材料の特徴を生かす構造デザイン」をテーマに登壇。坂田氏が意識している構造デザインの勘所や、設計に携わった建物を紹介した。

総会終了後には、懇親会を実施し、会員同士の親睦を深めた。



総会では全議案が承認



土本会長があいさつ



坂田涼太郎氏の音頭で乾杯

令和5年度 信州名匠会 年間スケジュール

A:会員集会・委員会 B:学習・見学・実習 C:交流 カッコ内は担当委員会

令和5年

- 6月20日(火) 令和5年度第31回通常総会(総務)
7月22日(土) 第1回研修会 C(会員)
8月 2日(火) 親睦スポーツ大会 C(会員)
9月23日(土) 第2回研修会 B(事業技術)
10月22日(土) 第3回研修会 C(会員)
11月18日(土)・19日(日) 研修旅行 B・C(事業技術、協力:
 総務・会員)
12月13日(水) 第4回研修会 B(事業技術)

令和6年

- 1月 24日(水) 新年会 C(会員)
2月 21日(水) 第5回研修会 B(事業技術)
3月 13日(水) 第6回研修会 B(事業技術)
4月 6日(土) 第7回研修会「お花見」 C(会員)
5月 18日(土) 第8回研修会 A・C(総務・会員)
6月 26日(水) 令和6年度第32回通常総会(総務)

研修会 場所：基本会場（株）宮本忠長建築設計事務所 第2会場（株）降幡建築設計事務所
時間：18:30～20:30 ※委員会の企画内容により異なる場合があります。
※研修内容・場所・日時については決定次第、順次お知らせいたします。

令和5年度通常総会

「木質材料の特徴を生かす構造デザイン」

坂田涼太郎構造設計事務所 代表取締役

坂田 涼太郎 氏



講演する坂田氏



屋久島町庁舎。設計：アルセッド建築士事務所



道の駅までい館。設計：関・空間設計

総会の基調講演会では、坂田涼太郎構造設計事務所の坂田涼太郎代表取締役が「木質材料の特徴を生かす構造デザイン」をテーマに話した。

坂田氏は、「構造デザインは、建築の機能・合理性を考慮したうえで技術的に美的に体現することや、技術力に加えて感性が求められる」と説明。同氏が考える勘所として、1)造形と構造の一体性 2)構造体の自由度を高める 3)与件をうまく利用する 4)感性を働かせるーの4点を挙げた。「構造はこうでなければならないという思い込みは捨て、この建物にとって重要な構造とは何かを考える必要がある。その場の与件を逆手に取ることで固有の構造が生まれる。また、部材断面やディテールのプロポーションを意識することも重要」と説いた。

木質材料を生かす構造デザインについては、「木質材料は樹種による強度や性質に違いがあり、断面寸法、長さ、調達などに制約が多い。集成材・LVLなどのEW(エンジニアド・ウッド)、CLTなどをどう使い分けるか。固定された選択方法はないが、自分の経験や考え方を通して、判断する必要があり、木材の特徴を生かすことで、デザインにどのような違いを生むのかを考えることが大切」と述べた。また、「架構には断面、ピッチ、配置など組み合わせは無限にある。垂木一つとっても、ピッチや断面が変わるので、その空間の印象を左右する」とした。

事例紹介では「道の駅あいづ湯川・会津坂下」(2014)などを解説。坂田氏は「切妻型の施設で、形状に対して『樹状構造』が、森のような象徴的な空間を表現する架構として採用されている」と説明。樹状構造のメリットとして、枝材によって均等に屋根を支持することができるため積雪に対して有効な構造、支持点間の距離が小さくなるため、安価な流通用スギ製材によって屋根を受ける梁材を構成できることを挙げた。

そのほか、横浜英和学院スチューデントセンター（2022）、奈良の木を使った移動式仮設体育館（2020）、屋久島町庁舎（2019）、道の駅までい館（2017）などの架構概要などを紹介した。

三十ツ星1名ほか5名の新認定者が誕生～スリースター制度規認定者紹介～

「スリースター制度」は、月1回の定例研修会に熱心に参加している会員の努力をたがいに認めあい、その誇りを励みに日々の仕事を高めあおうと、平成11年に創設された。研修会へ1回出席するごとに1単位を加算し、10単位で星1つを与える。今年は新規認定者5名（認定者総数60名）が誕生し、通常総会において認定証を授与された。貴重な研さんとの場である定例研修会への会員諸氏の精力的な参加が、今後も期待される。

◆「スリースター制度」令和4年度新規認定者

(令和5年6月現在、敬称略。紙幅の関係で新規認定者のみ掲載いたします)

☆☆☆三十ツ星1名☆☆☆
堀 誠／建築工房アカシヤ☆☆☆十ツ星1名☆☆☆
黒澤 忠／クロサワメタル（株）☆☆☆二十ツ星1名☆☆☆
犬飼 栄治／（株）シナノ大理石☆☆☆五ツ星2名☆☆☆
北澤 徹／（有）北澤ステンレス工業、小坂 浩一／小坂建設（株）

令和4年度 事業報告 (人数は参加者)

令和4年

- 6月23日(木) 第30回通常総会 43名
記念講演「里山くらしのデザイン—土蔵修復からデザイン／ビルトまで」
荻野紀一郎氏 49名
- 7月16日(土) 第1回研修会 信州大学織維学部施設見学会（真綿・蚕糸館・講堂・貯蔵庫・旧千曲会館） 信州大学工学部建築学科教授（信州名匠会会長）土本俊和氏、信州大学工学部建築学科教授 羽藤広輔氏 25名
- 8月 30日(火) 親睦ゴルフ大会 長野カントリークラブ 16名
- 9月17日(土) 第2回研修会 置屋根・土壁・伝統工法『力石の家』見学会 小坂建設株式会社（当会会員） 小坂浩一氏 19名
- 10月26日(水) 第3回研修会 リレートーク「建築資材・地場産木材の現状と今後」
(株)カネト代表取締役社長 高見澤正孝氏、(株)勝野木材 代表取締役社長 勝野智明氏、専務取締役 勝野泰平氏 25名

- 11月12日(土)～13日(日) 静岡研修旅行 富士山世界遺産センター・久能山・ねむの木美術館 17名

令和5年

- 1月25日(水) 信州名匠令和5年会新年会 29名
「たくみ」No48 新春号 発行
- 3月11日(土) 第5回研修会 (株)ミツルヤ製作所工場見学及び家具仕上げ面材等について (株)ミツルヤ製作所 徳津吉通氏、アイカ工業(株)松本営業所長 大橋謙太氏 24名
- 4月 8日(土) 第6回研修会 「国宝旧開智学校」「百竹亭」「松本館」見学会 藤松建築設計室 藤松幹雄氏、(株)宮内 宮内計臣氏 31名
- 12月、2月 研修会および見学会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

平成4年度 会計報告書

自：令和3年6月1日/至：令和4年5月31日

令和4年度 事業予算書

自：令和4年6月1日/至：令和5年5月31日

会員の動向

(令和4年6月～令和5年5月末日。敬称略)

■新会員 贊助会員■

宮入鋼平／(株)宮入鉄工所／鉄骨／長野市松代町東寺尾
2689-1／電話026-278-5888

竹野正樹／(株)二見屋／屋根／長野市稻里町田牧190番地／
電話026-284-3113

吉池 茂／吉池鉄工(株)／鉄骨／長野市松代町豊栄847-1／
026-278-3789

竹節 雅英／(有)竹節建築／大工／中野市大字中野字岩下
2820-2/0269-26-2278

■退会 個人会員■

(株)ライフエンジニアリング 前任)樋口 豊 新任)岡田 直也
サンコー特機(株) 前任)白石 大陸 新任)大内 健太郎
(株)新建新聞社 前任)新井 庄市郎 新任)三浦 祐成

■逝去 個人会員■

宮入 豊一／(株)宮入鉄工所／鉄骨

顧問 馬場璋造氏 ご逝去

信州名匠会の発足時から、顧問としてご尽力いただいた建築評論家の馬場璋造氏が、2021年12月20日、老衰のため86歳で逝去された。

馬場氏は、建築誌『新建築』編集長などを経て、建築情報システム研究所を設立。長年の編集・評論活動に対し、平成14年日本建築学会業績賞を受賞された。

馬場先生には、平成26年第23回通常総会まで、毎年参加され、会員への励まし・ご助言をいただきました。長年にわたるご指導とお力添えに、心から感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。



令和4年度研修旅行

令和5年11月12日(土)~13日(日) 参加者:18名

「静岡の建築を堪能

富士山世界遺産センター・日本平夢テラス・静岡県立芹沢鉢介美術館・吉行淳之介文学館・ねむの木学園美術館どんぐり」

令和4年度は、令和元年大水害、さらにコロナ感染症の拡大により、二度延期となった「静岡方面」の一泊二日の研修旅行を、11月12日(土)~13日(日)に実施することができた。

一日目は午前中に、「富士山世界遺産センター」(設計:坂茂)、午後、日本平ロープウェーに乗り久能山東照宮参拝の後、「日本平夢テラス」(設計:隈研吾)を見学。最後に「静岡県草薙総合運動場体育館」(設計:内藤廣)を外観見学した。二日目は午前中、「静岡県立芹沢鉢介美術館」(設計:白井晟一)、その後、「吉行淳之介文学館」(設計:中村昌生)、「ねむの木学園美術館どんぐり」(設計:藤森昭信)を見学した。



久能山東照宮にて

坂茂氏設計「静岡県世界遺産センター」

「静岡県世界遺産センター」は2013年6月にユネスコ世界文化遺産に登録された富士山を歴史、文化、自然などの観点から伝えていくための拠点施設。建物は象徴性を持たせるために展示空間を高さ14m、底部が直径10mの円形から長径46m 短径29.2m の楕円形に広がる逆さ富士型となっており、前面の水盤に富士の形が映り込むデザインとなっている。

また逆さ富士型の展示棟は富士ヒノキによる格子で覆われており、内部空間は逆さ富士の形にそって螺旋状のスロープがまわり、壁面には静岡県の特色である海からの富士登山を疑似体験のできる環境映像が映し出され、スロープの頂上は展望デッキとなっており本物の富士山がみることができるストーリー性のある建築であった。



世界遺産センター（外観）

隈研吾氏設計「日本平夢テラス」

「日本平夢テラス」は標高307mの丘陵地、日本平山頂に建つ、展望施設と空中回廊。法隆寺の夢殿にヒントを得て、八角形という形状をモチーフに設計されている。東西南北という直交軸をベースにしながら、そこにもう一つの軸線を持ち込むことによって、八角形という形状が生まれたとのこと。また木材は地元静岡県産のヒノキ材を使っており、この八角形という形状に、木の枝のような複雑性を与えた建物内部や空中回廊はとても迫力のある施設となっていた。



日本平夢テラス（外観）

白井晟一設計 「静岡市芹沢鉢介美術館」

染色家・芹沢鉢介により、郷里の静岡市に寄贈された作品約600点と世界の工芸品約4500点を核とし、芹沢の色彩豊かな作品とその他コレクションを鑑賞できる美術館。弥生時代の遺跡が点在する登呂公園の一隅に位置し、その遺跡の雰囲気と調和するよう、石、木、水という天然素材を選んで構成された建物となっている。外観は石を積み上げた質



芹沢鉢介美術館



芹沢鉢介の家

感のある外壁、銅板葺きの屋根で、内部は白木の檜材の組天井を持つ展示室がレベルをかえて巡るように配されて、鑑賞の場にふさわしい、落ち着いた空間を演出していた。また附属施設として、芹沢の住居と工房があった東京・蒲田から移築した「芹沢鉢介の家」も見学した。



ねむの木学園（外観）

藤森照信氏設計 「ねむの木こども美術館」

ねむの木こども美術館は女優宮城まり子が1968年設立した、日本で初めての肢体不自由児のための養護施設「ねむの木学園」の子どもたちが描いた絵を集めた美術館。

斜面に立つ建築であることから、平地にたつ建築と違い、基準となる視線の高さは1階分高く、屋根が主役となるような建築。急斜面から生える屋根は切妻とし、その先の盛り上がる屋根は周辺の丸みを帯びた山々の光景や茶畠からインスピレーションを受け、ドーム型としたようだ。屋根の素材は手で波状に曲げて凹凸させた小さな銅板を、こけらのように釘で止めて重ねて葺く「手曲げ銅板こけら葺き」を採用することで自由局面にも対応でき、全体としておおらかな表情が感じられる藤森照信氏らしい建築であった。



吉行淳之介文学館 茶室「和心庵」

中村昌生氏設計 「吉行淳之介文学館」

芥川賞作家吉行淳之介の文学館である。設計は京都伝統建築技術協会理事長の中村昌生氏。文学館のまわりには、桜や梅とけやきに囲まれており、館内には全著作約400冊のほか、芥川賞受賞作「驟雨」の手書き原稿、愛用の品や写真などが展示されている。また同館は裏千家15代家元千宗室命名の開かれた茶室「和心庵」が併設されており、現代あまり感じることのない本物の茶室を体感することができ、とても見応えのある空間となっていた。



芹沢鉢介美術館にて



ねむの木学園美術館どんぐりにて



富士山世界遺産センターにて

令和4年度研修旅行 【静岡の建築を堪能】参加者名簿 (18名。氏名／所属。順不同、敬称略)

黒澤忠／クロサワメタル(株)、西宮登喜男／(株)綿内瓦工業、林正道／(株)林工務店、堀誠／建築工房アカシヤ、増田幸雄／匠建設(株)、犬飼栄治／(株)シナノ大理石、岩井秀樹・岩井明美／岩井工業(株)、黄圣男／(株)力ネット、坂田守夫／坂田工業(株)、大内健太郎／サンコー特機(株)、祢津吉通／(株)ミツルヤ製作所、倉澤祐希／(株)北信帆布、内山保／朝陽工芸(有)、宮本夏樹・西澤広智／(株)宮本忠長建築設計事務所、大槻拓也・丸山友基／当会事務局

定例研修会●Report

(令和4年10月～令和5年5月)

令和4年度 第3回研修会 リレートーク 【建築資材・地場産木材の現状と今後】

令和4年10月26日(水)

講師:(株)カネト 高見澤 正孝氏、
(株)勝野木材 勝野 智明氏・勝野 泰平氏
参加者:25名

令和4年度第3回研修会は、25回目となる会員リレートークで、カネトの黄氏が企画。新型コロナの感染対策により会場を長野市柳原交流センターに移して開催された。

前年のウッドショックの影響は落ち着いた一方、建築資材・設備の不足や高騰は前年以上に顕著となる中で、カネト代表取締役社長の高見澤正孝氏が最近の建設資材の状況について説明。

ウッドショックによる外材の高騰を受けて注目される地域材については、勝野木材代表取締役の勝野智明氏が、特に全国でも有数の品質を誇る木曽ヒノキを中心には話をされた。

勝野氏は、日本は森林率が世界2位であるにもかかわらず、戦後の政策でこれまで外材産業として展開されてきたとして「地球の裏側から来る木材の方が安い」という事態がずっと続いた」と指摘。世界で最古(法隆寺)、最大(東大寺)、最高層(東寺五十塔)、最大床面積(東本願寺御影堂)と世界でも有数の木造建築がいずれも日本国内にあることを紹介し、「日本は木の文化」として建築用木材の国産回帰を強く訴えた。

その上で、日本の住宅の平均寿命がヨーロッパやアメリカと比べて極端に短い現状を憂い、同社が扱う木曽ヒノキについて「物理的強度」「比強度」「耐候性」に優れていて住宅の資産価値向上につながるとした。



勝野智明氏 木材への思いを熱く語る

令和4年度 第5回研修会 会員の仕事場見学会 【(株)ミツルヤ製作所】

講師:(株)ミツルヤ製作所 株式会社 吉通氏
アイカ工業(株) 大橋 謙太氏
参加者:24名

第5回研修会はミツルヤ製作所の吉通氏のご協力で、工場・ショールームを見学させていただいた。また、アイカ工業大橋所長にメラミン化粧板等、家具の面材やカウンターを中心にお話をさせていただいた。

研修会前半は公民館にてアイカ工業の建材事業の中で代表的な商品であるメラミン化粧板についてプレゼンしていただいた。メラミン化粧板とは、紙に熱硬化樹脂を含侵させ高温高圧で成型した厚さ0.4～1.2mmの化粧板であり、合板に化粧紙を張り合わせたポリ合板と違い、強度が強く意匠性に優れた素材。またメラミン化粧板を用いたカウンター、ポストフォームについても様々な事例を用いてご説明いただいた。

研修会後半ではミツルヤ製作所の工場を見学させていただき、収納スペース、テーブル、カウンター等の生産システム、制作過程から材料のストックヤードまで様々な家具製作現場の裏側を見学させていただいた。さらにミツルヤ製作所の工場では家具製作現場だけでなく金属製品の加工場もあり、ミツルヤ製作所の幅広い事業内容を知ることができた。また工場と併設されたインテリアショップ、+VITAにて自社工場で製作されたオーダー家具の一部も見学させていただいた。



ミツルヤ製作所の工場内、制作過程を見学



大野所長の話に耳を傾ける会員

令和4年度第6回研修会 【国宝旧開智学校校舎 耐震改修工事・松本館 見学会】

令和5年4月8日（土）

講師：藤松建築設計室 所長 藤松 幹雄氏（当会会員）

(株)宮内 宮内 計臣氏（当会会員）

ハシバテクノス(株) 笠井 健一氏

(株)かわかみ建築設計室 川上 恵一氏（当会会員）

参加者：32名



国宝旧開智学校の耐震対策工事の現場

第6回研修会は、松本市の国宝旧開智学校の耐震対策工事の現場を訪れた。参加者らは、左官仕上げや耐震補強工事中の壁、塔屋や屋根裏の様子を見学し、施工担当のハシバテクノスの担当者 笠井健一氏と左官工事を手がけた宮内計臣氏の説明に耳を傾けた。

工事は、壁の補強にあたり、壁漆喰の内部に構造用合板による耐力壁を設け、タイロッドで耐力壁の浮き上がりを防ぐ工法を採用。また、特に耐震性能が低いとされた塔屋については耐力壁と鋼製プレースを設置し、構造用合板による水平構面補強を行い、「極力、元の状態に戻るように施工している」とした。

宮内氏は、「補強工事をするために壊した壁は、新しい土を加えて再利用している。昔からの知恵で、壁には剥落防止のため『下げ芋（さげお）』を入れている」と紹介。また、隣接する開智小学校の児童が、旧開智学校の歴史を話してくれて「こ



開智学校（内部）

の建物がとても松本市民に愛されてきたことを再確認した。皆さんの期待に応えていきたい」と話していた。

旧開智学校の校舎は1876年竣工、2019年に近代学校建築として初めて国宝に指定された。21年から始まった耐震対策事業では耐力壁、基礎、水平構面、塔屋を補強する耐震補強工事と剥落した外壁漆喰などの修理工事を実施。24年秋の完成が予定されている。

研修会には30人以上が参加。見学後には松本城周辺を散策し、国有形登録文化財の松本館で昼食を取り、会員同士の交流を深めた。

松本城周辺 見学とお花見

松本館「鳳凰の間」 見学と昼食会

旧開智学校の見学後は、川上恵一氏と藤松幹雄氏の案内のものと2班に分かれて、松本城周辺のお花見を兼ねて散策。松本城城下町の復元図を手に取りながら、過去にあったお堀の位置や、建物の正面部分に洋風デザインを施した「看板建築」を見て回った。

その後、割烹・松本館の大広間「鳳凰の間」で昼食。女将の宮澤裕佳理さんから、国の登録有形文化財となっている旧館建物の歴史などを聞き、施設内を見学させてもらった。鳳凰の間の天井中央には「百花百鳥」が配されており、圧巻の内観だった。

降幡廣信副会長は、松本館について「東京の目黒雅叙園の内装を模して造られており、お客様を心から『もてなす』と



松本のまちについて案内する藤松氏



松本館「鳳凰の間」で挨拶する降幡先生

いう表現がされている建物。建物の内装もそうだが、お料理にも、料亭の『もてなす』という気持ちが表れている」と評した。



松本館「鳳凰の間」格天井



松本館「鳳凰の間」床の間

令和4年度 第7回研修会 【中野市民会館リノベーション 工事 現場見学会】

令和5年5月13日(土)

講師：(株)宮本忠長建築設計事務所 山田設計部長
本荘監理副主管 出澤監理副主管
中野土建(株) 村上工事所長

参加者：22名

第7回研修会は、リニューアル工事が進む中野市民会館の現場を見学した。既存の会館をいかに生かしてリニューアルするかを課題に行われたもので、設計を担当した宮本忠長建築



中野市民会館にて設計者による計画概要説明

設計事務所の担当者が工事のポイントを説明した。

リニューアル前の会館は、中山晋平や高野辰之らを輩出した同市において長く音楽家に愛された施設として内装は豪華だったものの、築後50年以上が経過し、雨漏りや残響が課題で、耐震性能の確保も必要とされ、現代の演奏会会場に求められる水準を満たしていなかった。リニューアルにあたっては、参考となる建築当時の図面が存在せず、既存の空間と意匠を生かして耐震補強を行うもので、「実際に壊してみないと分からぬ中、チャレンジするハードルは新築よりも高く、非常に困難な仕事だった」という。

元は1000席あった客席を800席に減らし、以前はホールを通過しないと上手と下手間の行き来が出来なかつた状態を、楽屋と廊下を設けることで解消。音響面では、ひだのある壁にしてコンクリートの質量を増やし、客席一つ一つの吸音効果も要素として考慮した。

見学時、大ホールに設けられた足場は天井まで届く高さがあり、転落防止や壁との寸法にも気を遣い、工事が進められていた。工事を担当した中野土建の現場担当者は、「仮設計画に苦労した。材料の搬入計画も考慮に入れて作業の高さを決めた」と報告した。



中野市民会館のリニューアル工事現場説明



中野市民会館内部の現場見学